

## 【お問い合わせ先】

キャタピラー

渉外・広報室

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-7-1

TEL: 045-682-3576 FAX 045-682-3690

本資料はCaterpillar米国本社が2020年4月28日に発信したプレスリリースを日本語に翻訳し、みなさまのご参考に提供するものです。  
本資料の正式言語は英語であり、その内容・会社については英語が優先します。

**Caterpillar が 2020 年第 1 四半期業績を発表**

- 第 1 四半期の売上高は（前年比）21%減、1 株当たり利益は 39%減
- 流動性の増強により、財務力を強化
- 約16億ドル相当を株主に還元

(単位：10 億ドル、但し 1 株当たり利益除く)	第 1 四半期	
	2020	2019
売上高	\$10.6	\$13.5
1 株当たり利益	\$1.98	\$3.25

(イリノイ州ディアフィールド発) — Caterpillar Inc. (NYSE: CAT) は本日、2020 年第 1 四半期の業績を発表しました。売上高は 106 億ドルとなり、135 億ドルだった前年同期に比べ 21%減少しました。これは、エンドユーザーの需要が落ち込み、ディーラー在庫に変化が生じた影響により、販売台数が減少したことが原因です。今四半期にディーラーが増やしたマシンやエンジンの在庫は、約 1 億ドル相当（前年同期：13 億ドル相当）でした。

1 株当たり利益は 1.98 ドル（前年同期：3.25 ドル）でした。これには、米国以外の国・地域の年金債務を支払ったことを受けた再測定による税引前利益の 2 億 5,400 万ドル（1 株当たり 0.38 ドル）が含まれています。なお、前年同期の 1 株当たり利益には、米国税制改革に関連する個別項目減税の効果による 1 億 7,800 万ドル（1 株当たり 0.31 ドル）が含まれています。今四半期はさらに、短期インセンティブ報酬の支出がなかったことにより利益が増加しましたが、この増加分は、個別項目を除いた推定年間税率が 31%と高率になったことにより一部相殺されています。営業利益率は 13.2%（前年同期：16.4%）でした。

また、2020 年第一四半期の間の全社営業キャッシュフローは 11 億 3,000 万ドルでした。当社は、流動性の増強により財務力を強化する措置を講じています。結果、今四半期末における連結ベースの現金残高は 71 億ドル、同じくグローバル信用取引残高は 105 億ドルとなりました。さらにこの 4 月には、新規の 10 年債および 30 年債を発行して 20 億ドルの現金を調達し、自社の流動性を補完するべく新たに 80 億ドルの補助的な信用取引も設定しました。

## 新型コロナウイルスへの対応とグローバルな事業状況

Caterpillar の Jim Umpleby（アンプレビー）会長兼 CEO は以下のように述べています。「当社はこれまで通り、世界中の社員の安全、健康、福祉を守るべく真剣に取り組んでいます。また、社員やディーラー各社が献身的な姿勢で、お客様や地域に対し貢献し、互いに協力し合っていることを誇りに思っています。この新型コロナウイルスの世界的な大流行時に、お客様は、当社社員のお届けする製品・サービスにより、社会の支援に不可欠な重要なインフラを提供することが可能になります」。

### ■事業への影響

社員の保護のために、当社では、各施設において安全保護対策を実施しています。たとえば、施設の清掃・殺菌の頻度を増やし、ソーシャルディスタンスの確保を習慣化するほか、具体的な規制要件や保健当局からの指導に一致する対策を講じています。

また、当社の事業は、多くの国により、重要なインフラの支援に不可欠な活動として分類されています。当社はここ数週間、サプライチェーンの問題、顧客需要の低迷、あるいは政府の各種規制を理由に、一定の施設の事業を一時的に停止してきました。この4月中旬時点においては、世界中の3つの主要セグメント全体の主な生産施設のうち、約75%が事業を継続しています。一時的に閉鎖された施設のいくつかは、すでに再開しています。今後も状況を監視し続け、事業状況によっては、いくつかの施設で事業を一時的に停止する可能性があります。

当社では、多くの社員やすべての上級管理職を対象に、任意の支出を削減したり、2020年の基本給の引き上げを一時停止したり、短期インセンティブ報酬制度を一時的に停止するなどして、コスト削減対策を講じています。また、支出に優先順位を設けることで、サービスへの投資、製品拡充に向けた投資、さらには2017年に導入された『収益性の高い成長』に向けた自社戦略の主要要因に対する投資を可能にしています。

### ■見通し

2020年の今四半期以降の業績は、新型コロナウイルスの世界的蔓延に起因するグローバル経済の不確実性が続くことにより影響を受けるものと思われます。そのため当社では、3月26日のアーニングス・ガイダンス（経営者による業績予想）を中止し、今回も2020年通年の業績見通しを示していません。

Umpleby（アンプレビー）会長兼 CEO は、「当社では、『収益性の高い成長』に向けた自社戦略を継続的に実行しつつ、財務力を強化するための確固たる措置を講じています。Caterpillar は創業から95年、幾多の難題に立ち向かい、それらを克服してきました。このパンデミック後に、一層強靱な企業となることを目指しています」と述べました。

**キャタピラー社について：**

建設機械の歴史は、1925年にキャタピラー社と共に始まり、未来へ続きます。世界最大の建設機械メーカーであるだけでなく、エンジン・発電機などパワーシステムのリーディングサプライヤーでもあります。

また、1963年以来、キャタピラー社は、半世紀以上にわたって、日本に重要な拠点を構えています。特に、主力製品である油圧ショベルの開発・製造をリードし、時代の先端を行く製品と技術を世界へ発信しています。